



清涼飲料業界 プラスチック資源循環宣言 および 取組み説明

2030年度までにPETボトルの100%有効利用を目指す
お客様、政府、自治体、関係団体等と連携して

2019年08月07日

一般社団法人 全国清涼飲料連合会

一般社団法人 全国清涼飲料連合会



★事業内容

活動理念に基づき、会員相互の連携協力のもと共通の諸課題について議論、検討を行い、これらに関する清涼飲料業界の考え方を確立し、国政、行政、ならびに関連諸団体、グループ、メディアに対し、業界の代表として活動を行っています。

会員数

(2019年5月29日現在)



目次

1. 清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言

(2018年11月29日記者発表内容)

2. プラスチック資源循環宣言の実行に向けて

3. 取り組み実施事項

- 海ごみゼロウィーク(環境省、日本財団)における業界活動
- 自販機専用空容器リサイクルボックスでの消費者啓発
- PETボトル資源循環促進のための消費者啓発
- その他取り組み実施事項

3

2018年 清涼飲料水業界概要 カテゴリー別生産量

品目別生産量割合 (2018年)

品目別生産量割合では、多くのカテゴリーを有する茶系飲料がトップとなりました。

その他

8.8%

野菜飲料	2.8%
乳性飲料 (ストレート)	2.9%
豆乳類	1.6%
その他飲料	0.8%
乳性飲料 (き釈用)	0.7%

スポーツ飲料等

6.6%

果実飲料等

7.5%

コーヒー飲料等

14.4%

総生産量
22,746千^{kl}

茶系飲料

29.0%

茶系飲料は以下の分類の合計

緑茶飲料	13.0%
紅茶飲料	4.6%
むぎ茶飲料	4.5%
ブレンド茶飲料	3.4%
ウーロン茶飲料	2.5%
その他茶系飲料	0.9%

炭酸飲料

17.6%



ミネラルウォーター類

16.1%

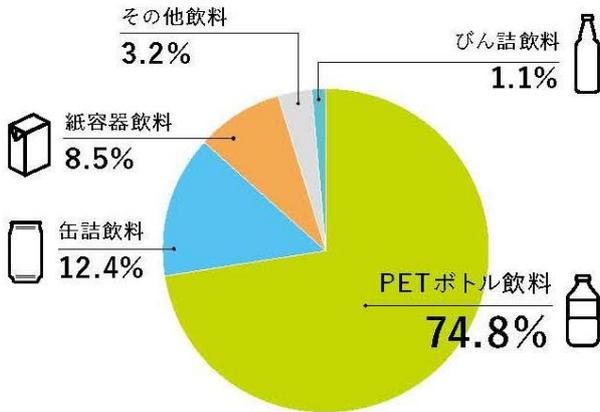


品目別生産量推移 (1998年~2017年) は全清飲HPでご確認ください
<http://www.j-sda.or.jp/statistically-information/stati04.php>

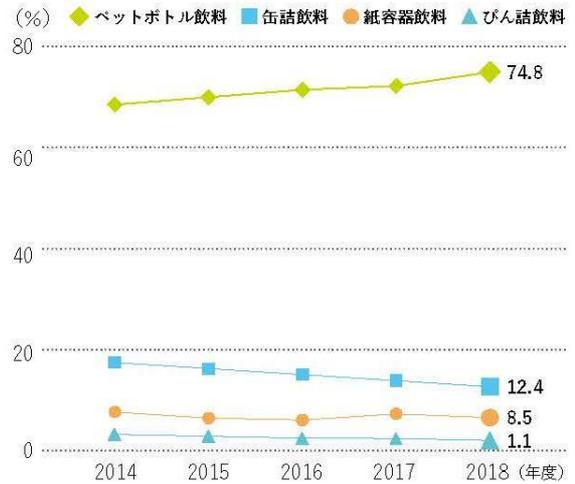
2018年 清涼飲料水業界概要 容器別生産量

容器別生産量シェア (2018年)

2018年PETボトルのシェアは74.8%に達しました。



容器別生産量のシェア推移 (2014年~2018年)



PETボトルのシェアは増加を続け、2015年に70%を突破して以降もさらに高まっています。

参考：2017年度のPETボトルの出荷本数は227億本 (PETボトルリサイクル推進協議会調べ)

容器別生産量推移 (2008年~2017年) は全清飲HPでご確認ください
<http://www.j-sda.or.jp/statistically-information/stati06.php>

プラスチックをめぐる問題

海洋プラスチック問題 ②

- 陸上から海洋に流出したプラスチックゴミの発生量 (2010年推計) を人口密度や経済状態等から国別に推計した結果、1~4位が東・東南アジア。
- 環境省による漂着ごみのモニタリング調査において、回収された漂着ペットボトルの製造国を推定した結果、外国製のペットボトルは、10地点全てで見られ、5地点でその割合が4割以上。一方、根室、函館、国東では外国製の割合が2割以下で、日本製が5~7割。

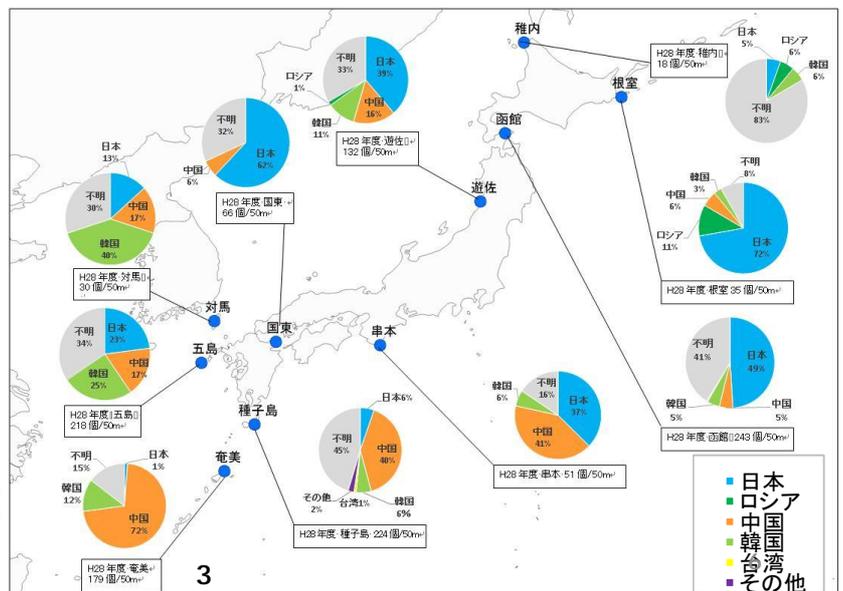
陸上から海洋に流出したプラスチックごみ発生量 (2010年推計) ランキング

1位 中国	132~353万 t/年
2位 インドネシア	48~129万 t/年
3位 フィリピン	28~75万 t/年
4位 ベトナム	28~73万 t/年
5位 スリランカ	24~64万 t/年
...	
20位 アメリカ	4~11万 t/年
...	
30位 日本	2~6万 t/年

(参考) Plastic waste inputs from land into the ocean (2015.Feb. Science)

出典：環境省資料

環境省による海洋ごみの実態把握調査 (漂着したペットボトルの製造国別割合) (平成28年度)



持続可能な社会形成目指した飲料業界の取組み

気候変動・エネルギー・資源

温室効果ガス排出量の大幅削減

3Rを通じた資源循環

低炭素社会

- 清涼飲料業界のCO2排出削減
 - …経団連自主行動計画の推進
 - …他業種での先進事例共有
- フロン排出抑制法への対応
- 自販機総消費電力量自主行動計画
- 省エネ法対応:自販機一台当たり消費電力量削減
- 国民運動「COOL CHOICE」に協力

持続可能社会

循環型社会

- 3R推進自主行動計画
 - …環境配慮設計、3R施策の徹底
 - …経団連自主行動計画「循環型社会形成編」を継続実施
 - …PETボトル自主設計ガイドライン
 - …容器包装素材別8団体の活動に協力
 - …先進事例共有、会員企業支援
- リサイクル制度の健全な維持
 - …業界としての容り法、食り法への対応
- 効率的な生産・物流、廃棄物削減
 - …年月表示ガイドライン、気象情報活用

自然共生社会

自然の恵みの享受と継承

- 散乱防止活動推進
 - …食品容器環境美化協会の運営に参画
- 景観法・景観条例対応:自販機自主ガイドライン制定・遵守
- 海洋ごみ、マイクロプラスチック等新たな課題への対応
- 森林吸収源・水源対策等会員各社の先進事例共有

環境面での業界活動活動の広報

- 全清飲HPを通じての業界環境活動の広報
- PETリサイクル推進協の広報活動推進
- 環境問題に取り組む市民団体との情報交換

1992年～ 指定PETボトル自主設計ガイドライン

清涼飲料（含乳飲料）、特定調味料（しょうゆ他）、酒類

* 資源有効利用促進法→指定表示製品[分別回収の促進]



キャップ ⇒ プラスチックキャップ
(PE/PP=比重1以下で水に浮く)
1998年 アルミキャップを禁止



ボトル本体 ⇒ PET単体/無色透明
1998年 ベースカップを原則禁止
2001年 着色ボトルを禁止
2015年 BtoB対応ガイドライン追加

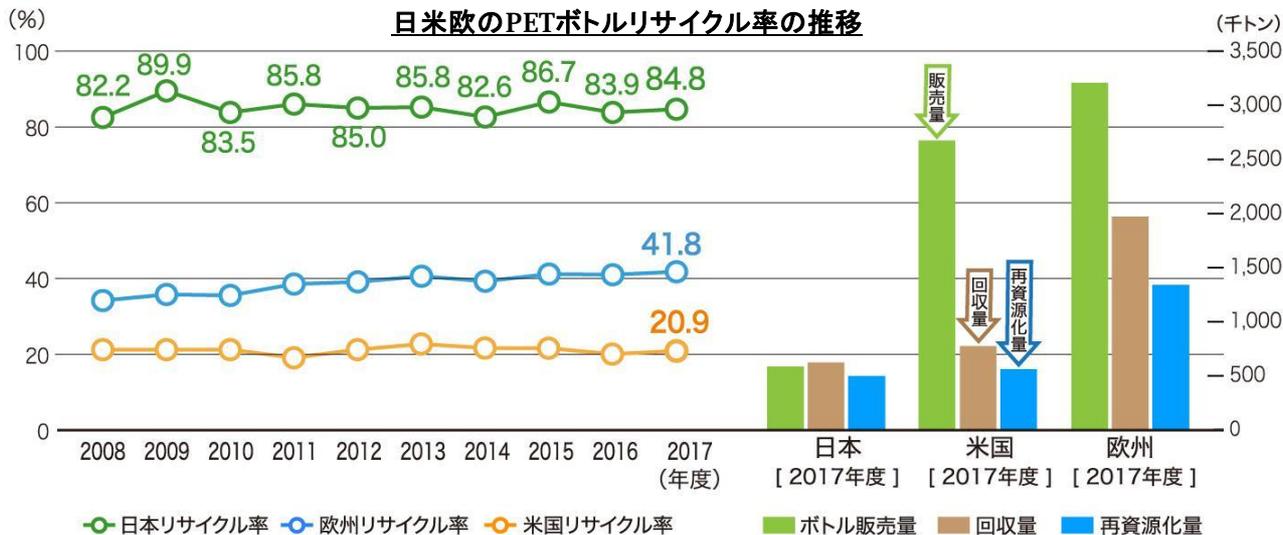


ラベル ⇒ 手で簡単に剥がせること
1994年 PVCを禁止(再生材変色防止)
1994年 全面糊付け紙ラベルを禁止
1998年 アルミラミネートを禁止

PETリサイクル（回収・再資源化）の動向 ①

世界最高水準のリサイクルを維持

2017年度の米国リサイクル率20.1%や、2017年度の欧州リサイクル率41.8%と比較すると、日本のリサイクル率は引き続き世界最高水準を維持

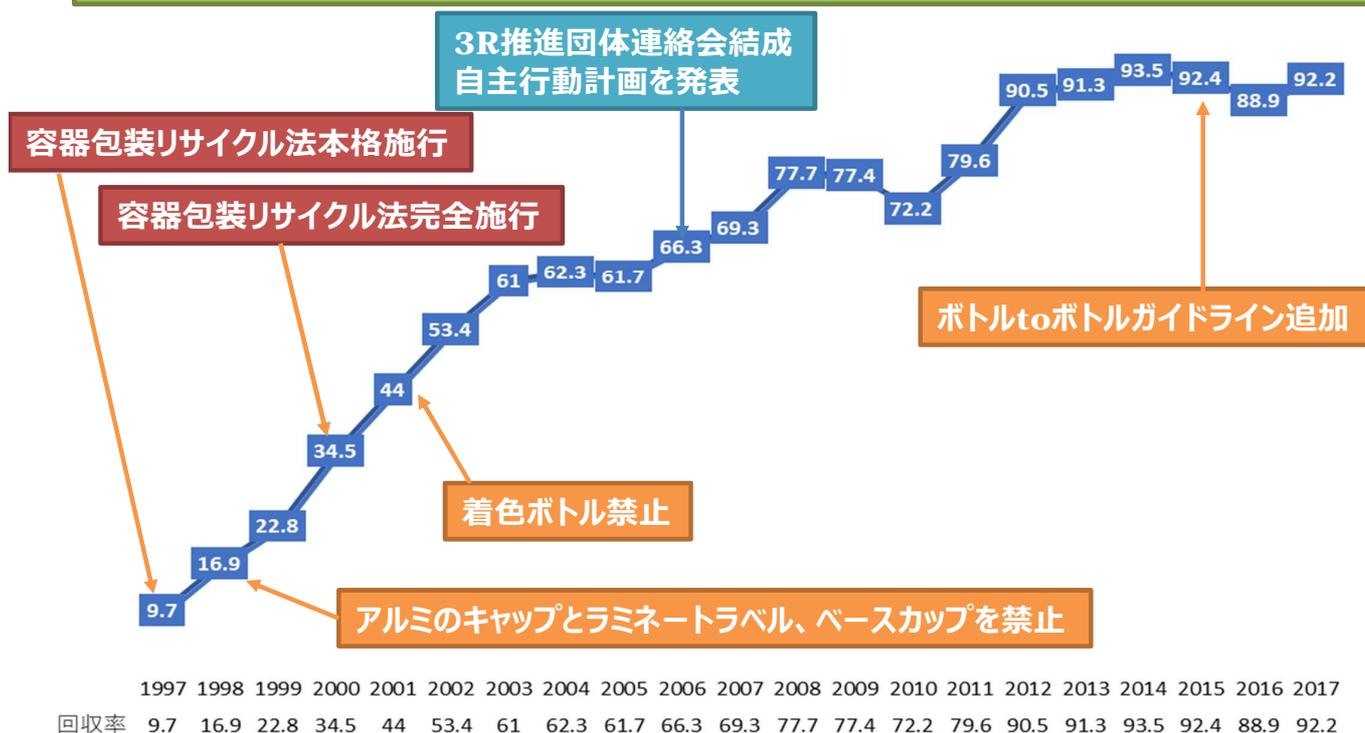


年度	販売量 (A)	回収量 (B)	再資源化量 (C)	リサイクル率 (C/A)
日本(2017年度)	587	624	498	84.8%
米国(2016年度)	2,682	783	561	20.9%
欧州(2017年度)	3,207	1,972	1,340	41.8%

PETボトルリサイクル推進協議会
The Council for PET Bottle Recycling

PETリサイクル（回収率）の動向 ②

容器包装リサイクル法ならびに業界自主基準により、高レベルの回収率を実現



PETボトル軽量化（リデュース）の動向

リデュースの推進

目標（軽量化率25%）に向け着実に進展

【ボトル軽量化効果】

指定PETボトル全体の軽量化率は**23.9%**

削減効果量は**181.4千トン**



容量軽量化による削減効果量と軽量化率の推移

 PETボトルリサイクル推進協議会
The Council for PET Bottle Recycling

11

環境美化への取組み(公益社団法人 食品容器環境美化協会)

食環協は飲料メーカー6団体が集まり、食品容器の散乱防止等を図り、伝統ある国土の環境美化等に努めることにより、公共の福祉の増進に資することを目的に設立、運営されています。

- u 一般社団法人 全国清涼飲料連合会
- u 一般社団法人 全国トマト工業会
- u 一般社団法人 日本果汁協会
- u コカ・コーラ協会
- u 日本コーヒー飲料協会
- u ビール酒造組合

● 食環協の事業

- (1) 環境美化に関する啓発普及及び助成
- (2) 環境美化に関する調査研究
- (3) 環境美化に関する資料及び情報収集、分析、提供
- (4) 環境美化に関する公共機関等との連携・協力
- (5) 環境美化に関する公共機関等への要請・建議等
- (6) その他協会の目的を達成するために必要な事業



● 具体的事業

- アダプト・プログラム助成事業
- アダプト・プログラム活動の情報収集
- イベントへ出展等
- 環境美化教育優良校の表彰
- 環境美化活動実践の紹介
- 環境学習ガイドの作成配布
- まち美化キッズの提供

散乱ごみ問題は、一社で解決困難でもあるため、飲料メーカー団体が集まり、「食品容器の散乱防止等を図り、伝統ある国土の環境美化等に努めることにより、公共の福祉の増進に資する」目的で、1973年に食品容器環境美化協議会を設立しました。

2011年4月に、公益社団法人への移行。会員である飲料業界が一体となって、取り巻く情勢を踏まえ、各般の散乱防止策を推進し、協会設立の目的達成に努めています。

- ・アダプト活動支援…2017年度までに累計約350の環境美化団体に助成
- ・環境美化教育優良等表彰事業…第1回～第19回(2000年～2018年)累計1184校を表彰

清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言

2018年11月29日

清涼飲料業界は、「清涼飲料業界のプラスチック資源循環に対する基本的な考え方」を基に、陸域・海域の散乱問題も踏まえ、お客様、政府、自治体、関連団体等と連携しながら、2030年度までにPETボトルの100%有効利用を目指し、短・中・長期に方向性を定め、プラスチック資源循環に真摯に取り組むことを宣言します。



一般社団法人 全国清涼飲料連合会

13

清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言を踏まえた短期・中期・長期の取組みの方向性

短期

2019年度
G20開催
国内プラ資源
循環戦略策定
2020年
東京オリパラ

- U 国民運動と連動した業界としての啓発活動と広報強化
- U 3R推進団体連絡会と協力し、第3次自主行動計画の達成
目標2020年度リサイクル85%以上、リデュース25%(2004年度比)
- U 自販機専用空容器リサイクルボックスにおけるリサイクル啓発、及び効率的な回収への取組み強化
- U 環境NGO等ステークホルダーとの連携強化
- U 再生材利用拡大(ボトルtoボトル等)への課題整理及び推進
- U 代替素材活用への取組み推奨(バイオマスプラスチック等)

中期

2025年度
第四次循環型
社会基本計画
数値目標年次

- U 国や地域との協働による、より効率的な回収システム構築
- U ポイ捨て防止条例強化要請
- U 再生材・代替素材の積極的な活用推進

長期

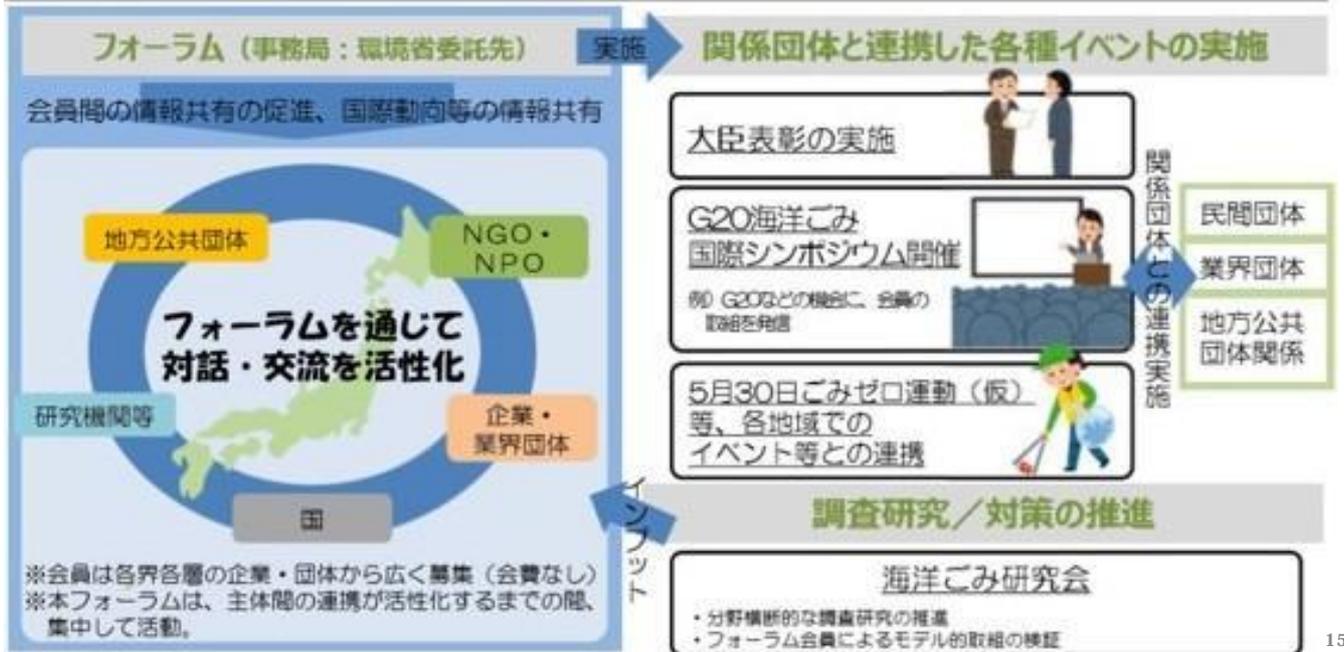
2030年度
SDGsゴール

- U PETボトル100%有効利用を目指した業界の姿勢・取組み
- U 世界に誇る日本の回収・リサイクルシステムの価値と根拠を定量的かつサイエンスベースで示し、諸外国への波及を目指した関係団体との協働

14



全清飲は、プラスチックとの賢い付き合い方を推進するために環境省が立ち上げたSNSを主体とする「プラスチック・スマート」へ登録するとともに、フォーラムにも参加することで、各主体に広くご意見を伺いつつ、業界としての情報も発信し、対話・交流の活性化を図ります。



■ ■ 環境大臣意見交換会 ■ ■



■ 環境大臣意見交換会

原田環境大臣と全清飲 中田専務理事が意見交換
清涼飲料業界のプラスチック資源循環への取り組みを説明
自販機横のボックスは「自販機専用空容器リサイクルボックス」です

一般社団法人全国清涼飲料連合会（東京都千代田区、以下：全清飲）は公益社団法人食品容器環境美化協会（以下、食環協）、日本スポGOMI連盟とともに4月25日、「海洋プラスチック官民イノベーション協力体制」意見交換会の第6弾として、原田義昭環境大臣を訪問し、意見交換をしました。



全清飲：中田専務、食環協：山本専務、環境省：原田大臣、日本スポGOMI：馬見塚代表

環境省 CEチャレンジ 原田大臣から堀口会長へ交付

日時:2019年6月17日(月) 11:00~11:46

会場:環境省 第1会議室



←左からセブン&アイHLDGS.井阪隆一代表取締役社長、環境省原田義昭環境大臣、Appleリサ・ジャクソン副社長、一般社団法人全国清涼飲料連合会 堀口英樹会長

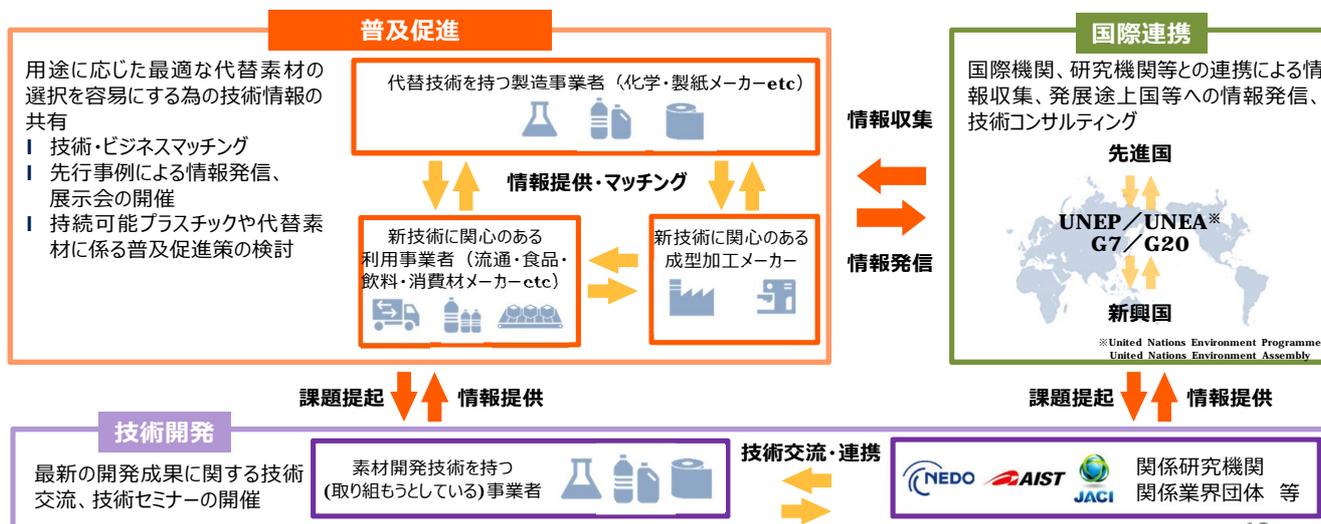
環境省のCEチャレンジの発足式において、原田義昭環境大臣より、循環経済の構築に向けて野心的な取り組み宣言を行っている団体として、アップル社、セブン&アイホールディングスとともにアワード交付され、国内外の模範となるような取り組みとして奨励されました。業界が一丸となり取り組んでいることが評価されました。

17

クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンスへの参加

経済産業省が、プラスチック製品の3Rの取り組みのより一層の強化や代替素材等の開発と普及を促進する目的で設立したクリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンスに全清飲として参加し、PET等のリサイクル環境をより向上させるとともに、最新素材の情報を入手し、開発と普及の推進を図ります。

<主な活動内容>



- 海洋プラスチックごみによる環境汚染は、世界全体で連携して取り組むべき喫緊の課題。我が国は、2019年のG20議長国として、各国が連携して効果的に対策が促進されるよう取り組む。
- 同時に、我が国は、「新たな汚染を生み出さない世界」の実現を目指し、率先して取り組む。そのため我が国としての具体的な取組を、「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」として取りまとめた。
※プラスチックごみは、世界全体で478～1275万トン/年、途上国が大宗を占め、我が国からは2～6万トン/年、海洋流出していると推計されている（2010年に関する推計値、Jambbeck S、Science(2015)）
- 重要なことは、プラスチックごみの海への流出をいかに抑えるか。経済活動を制約する必要はなく、廃棄物処理制度による回収、ポイ捨て・流出防止、散乱・漂着ごみの回収、イノベーションによる代替素材への転換、途上国支援など、「新たな汚染を生み出さない」ことに焦点を当て、率先して取り組む。

対策分野	課題	主な対策・取組	指標
① 廃棄物処理制度等による回収・適正処理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ✓アジア各国の廃棄物禁輸措置に対応した国内処理体制の増強 ✓漁具等の適切な回収 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 国民の日々のごみ出し・分別回収への協力に基づく、廃棄物処理制度・リサイクル制度による回収の徹底 ➢ 最新技術を活用した国内回収処理体制の増強や発泡スチロール製魚箱等のリサイクル施設等の整備 <small>(省CO2型リサイクル等高度化設備導入促進事業 2018年度56億円、2019年度31億円)</small> ➢ 農業由来の使用済プラスチックの回収・適正処理等について関係団体と連携し推進 ➢ 漁具等の陸域における回収等を事業者団体等を通じ徹底 ➢ 港湾における船内廃棄物の円滑な受入れ 	 プラスチックごみの国内適正処理量
② ポイ捨て・不法投棄、非意図的な海洋流出の防止	<ul style="list-style-type: none"> ✓容器包装等のポイ捨てや漁具等の海洋流出が発生 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 法律（廃棄物処理法、海洋汚染等防止法等）・条例（ポイ捨て禁止条例）違反の監視・取締りの徹底 ➢ 毎年の「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」(5/30～6/5)を中心とした国、自治体等による集中的な監視パトロールの実施 <small>(不法投棄撲滅運動/ポルマー)</small> ➢ 清涼飲料団体による、ペットボトル100%有効利用を目指し、自販機横に専用リサイクルボックスを設置する取組を支援 ➢ 河川巡視等による不法投棄の抑制 ➢ 漁業者による漁具の適正管理について事業者団体を通じ徹底 	 散乱プラスチックごみ回収量(陸域)
③ 陸域での散乱ごみの回収	<ul style="list-style-type: none"> ✓海に流出する前に、陸域において散乱ごみを回収することが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 住民、企業等が分担して街中、河川、海浜等の清掃美化等を行う取組（アダプト・プログラム）の更なる展開 <small>(助成等を行う(公社)食品容器環境美化協会と連携。45,000団体以上、250万人以上が参加 ※2019.2月時点、同協会調べ)</small> ➢ 道路のボランティア・サポート・プログラムの推進 ➢ 河川管理者や自治体、地域住民が連携した清掃活動やごみの回収 ➢ 新たに開始する「海ごみゼロウィーク」(5/30～6/8前後)において、青色のアイテムを身につけた全国一斉清掃アクションを展開。2019年は2000箇所で80万人規模、2019～2021年の3年間で240万人の参加を目指す。 	 散乱ごみの回収活動(全国にみネットワーク提供)
④ 海洋に流出したごみの回収	<ul style="list-style-type: none"> ✓一旦海洋に流出したプラスチックごみについても回収に取り組む必要 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 海洋漂着物処理推進法に基づく海洋漂着物等地域対策推進事業（2018補正31億円、2019予算4億円）により、自治体による海洋漂着物の回収処理を推進 <small>(水産多面的機能発揮対策 2019予算29億円の内訳)</small> ➢ 漁業者による海洋ごみ等の回収・処理を、海洋漂着物等地域対策推進事業、水産多面的機能発揮対策等により支援 ➢ 海洋環境整備船による閉鎖性海域における浮遊ごみの回収、港湾管理者による港湾区域内の浮遊ごみの回収 	 海洋プラスチックごみ回収量
⑤ 代替素材の開発・転換等のイノベーション	<ul style="list-style-type: none"> ✓海洋に流出しやすい用途を中心に、海洋生分解性プラスチック等流出しても影響の少ない素材への転換が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 「海洋生分解性プラスチック開発・導入普及ロードマップ」に基づき、官民連携により技術開発等に取り組む ➢ 代替素材への転換を支援する事業(2019予算35億円)等により、漁具等も含めた製品について、生分解性プラスチック、紙等への代替を支援 ➢ カネ兼用ハイブ等の高い耐久性・強度が必要とされない漁具について海洋生分解性プラスチック等を用いた開発を促進 ➢ プラスチック製造・利用関係企業の「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA)」を通じたイノベーション加速 ➢ 革新的ソリューションに取り組む企業・団体・研究者と「海洋プラスチック官民イノベーション協力体制」を構築し、発信 	 代替材料の生産能力/使用量
⑥ 関係者の連携協働	<ul style="list-style-type: none"> ✓幅広い国民各界各層の取組への拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 海洋ごみ発生防止に向けあらゆる主体の取組を促す「プラスチック・スマート」キャンペーンの展開 <small>(2019年5月時点408団体(独自)に賛同/取組中、「プラスチックスマート」SNSでも多数発信)</small> ➢ 「海ごみゼロアワード」による優良取組事例の表彰、「海ごみゼロ国際シンポジウム」による情報発信 ➢ 経団連の「業種別プラスチック関連目標」、農林水産業・食品産業の「プラスチック資源循環アクション宣言」を通じた取組促進 ➢ 海洋漂着物処理推進法に基づく地域協議会を通じた連携促進、内陸を含めた複数自治体連携のモデル事業の推進 	 スポーツとしてごみ拾いを競い楽しむ取組
⑦ 途上国等における対策促進のための国際貢献	<ul style="list-style-type: none"> ✓途上国における廃棄物管理等の対策促進が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 途上国に対し、廃棄物法制、廃棄物管理に関する能力構築・制度構築、海洋ごみ国際行動計画の策定、廃棄物発電等の質の高い環境・インフラ導入など、ODAを含めた様々な支援を実施 ➢ 「ASEAN+3海洋プラスチックごみ協力アクション・イニシアティブ」に基づきASEAN諸国を支援 ➢ 東南アジア地域での海洋プラスチックごみモニタリング人材の育成支援 	 国際協力により増加する適正処理廃棄物の量
⑧ 実態把握、科学的知見の集積	<ul style="list-style-type: none"> ✓対策実施の基礎として、実態把握・科学的知見の充実が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ モニタリング手法の国際調和の推進（2019年度は東南アジア数か国と調査の実証実施、人材育成研修等） ➢ 国内における排出量・排出経路等の調査・推計、漂着物や浮遊プラスチック類等の調査 ➢ マクロプラスチックを含む海洋プラスチックごみの人や生態系等への影響の調査 	 バングラデシュ・タタではICAの協力によりごみ回収率が48%から80%に改善(ICA提供) ミャンマー・チンゴにおける日本の支援による廃棄物発電施設

ロ 我が国のベストプラクティス（経験知見・技術）を国際的に発信・展開しつつ、「新たな汚染を生み出さない世界」を目指した実効的な海洋プラスチックごみ対策に率先して取り組む
※指標の進捗を毎年把握。科学的知見の進展等を踏まつつ、3年後を目途として見直しを行い、取組を強化していく。

② ポイ捨て・不法投棄、非意図的な海洋流出の防止	<ul style="list-style-type: none"> ✓容器包装等のポイ捨てや漁具等の海洋流出が発生 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 法律（廃棄物処理法、海洋汚染等防止法等）・条例（ポイ捨て禁止条例）違反の監視・取締りの徹底 ➢ 毎年の「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」(5/30～6/5)を中心とした国、自治体等による集中的な監視パトロールの実施 ➢ 清涼飲料団体による、ペットボトル100%有効利用を目指し、自販機横に専用リサイクルボックスを設置する取組を支援 ➢ 河川巡視等による不法投棄の抑制 ➢ 漁業者による漁具の適正管理について事業者団体を通じ徹底 	 不法投棄撲滅運動/ポルマー
③ 陸域での散乱ごみの回収	<ul style="list-style-type: none"> ✓海に流出する前に、陸域において散乱ごみを回収することが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 住民、企業等が分担して街中、河川、海浜等の清掃美化等を行う取組（アダプト・プログラム）の更なる展開 <small>(助成等を行う(公社)食品容器環境美化協会と連携。45,000団体以上、250万人以上が参加 ※2019.2月時点、同協会調べ)</small> ➢ 道路のボランティア・サポート・プログラムの推進 ➢ 河川管理者や自治体、地域住民が連携した清掃活動やごみの回収 ➢ 新たに開始する「海ごみゼロウィーク」(5/30～6/8前後)において、青色のアイテムを身につけた全国一斉清掃アクションを展開。2019年は2000箇所で80万人規模、2019～2021年の3年間で240万人の参加を目指す。 	

- 清涼飲料団体が、飲料用ペットボトルの100%有効利用を目指して、自動販売機横に自販機専用空容器リサイクルボックスを設置する取組など、食品産業関係団体が実施する取組を国としても積極的に支援する。また、ポイ捨て防止に向け、消費者に対し、このような業界の取組を積極的に発信、啓発する。（農林水産省）
- 市民（企業、町内会、環境団体等）が、地方公共団体と連携しつつ、一定区画の公共地域（駅前、道路、公園、河川敷、海岸等）を愛着を持って清掃美化・管理活動を行う「アダプト・プログラム」の更なる展開（アダプト・プログラムの普及推進や助成等を行う公益社団法人食品容器環境美化協会と連携）（環境省）

関西広域連合との取組み

6月11日「琵琶湖・淀川流域海ごみ抑制プラットフォーム」参加

シンポジウムについてNHK及び読売TVで放映

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190611-00000069-ytv-l27>

<https://www3.nhk.or.jp/kansai-news/20190611/0016449.html>

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO45957510R10C19A6LKA000/> 関西広域連合
UNION OF KANSAI GOVERNMENTS



約350名が参加して
開催されたことに加え、
シンポジウムの発言を
引用して報道

21

■ ■ 取組み実施事項 ■ ■



■ 海ごみゼロウィーク(環境省、日本財団)における業界活動(5月30日)

清涼飲料業界クリーンアクション2019～みんなで海ごみゼロを目指して～
「海ごみゼロウィーク」キックオフイベントに全清飲 堀口会長など参加



5月30日に環境省と日本財団が進める「海ごみゼロウィーク」がスタートすることを記念して開催されるキックオフイベントに、堀口英樹会長および主要会員社メンバーで参加いたしました。業界としてもキックオフとして位置付けており、活動を盛り上げていきます。

■ 海ごみゼロウィーク(環境省、日本財団)における業界活動(6月1日)

全清飲は、「海ごみゼロウィーク(5月30日ごみゼロの日 6月5日世界環境デー 6/8世界海洋デー)」を中心に、「清涼飲料業界 クリーンアクション2019～みんなで海ごみゼロを目指して～」を実施し、その一環として、NPO法人 海さくら・日本財団主催「海岸美化活動(ビーチクリーン)」に飲料各社の協力のもと、業界全体として参加しました。

- ①実施日 6月1日(土) 10時～12時
- ②場所 江の島
- ③参加者
会員会社社員 約130名が参加
と全清飲職員



参考 海ごみゼロウィークを含む5月～6月の飲料各社の美化活動

活動 参加人数	活動 実施箇所
約7500名	約400箇所

清涼飲料業界 クリーンアクション2019

6月1日 江ノ島 会員社から130名が参加

一般社団法人全国清涼飲料連合会(東京都千代田区、会長:堀口英樹、以下:全清飲)は「清涼飲料業界 クリーンアクション2019～みんなで海ごみゼロを目指して～」を展開しており、6月1日(土)、神奈川県江ノ島に会員社から130名強(家族を含む)が参加して、海ごみ拾いの清掃活動を行いました。

海洋ごみ問題の解決に向けて、清涼飲料業界として取り組むべく全清飲が会員社へ参加を呼びかけました。清涼飲料業界では他にも5～6月の期間だけで400箇所、7500名が参加して清掃美化活動を行っており、今後も継続していきます。

http://www.j-sda.or.jp/ippan/news_view.php?kind=1&id=270



自販機専用空容器 リサイクルボックス 消費者啓発

25

自販機専用空容器リサイクルボックス 組成分析結果



自販機で販売した商品の空容器であるPETボトル、缶、びんを回収するものですが、31%がその他（異物）です。



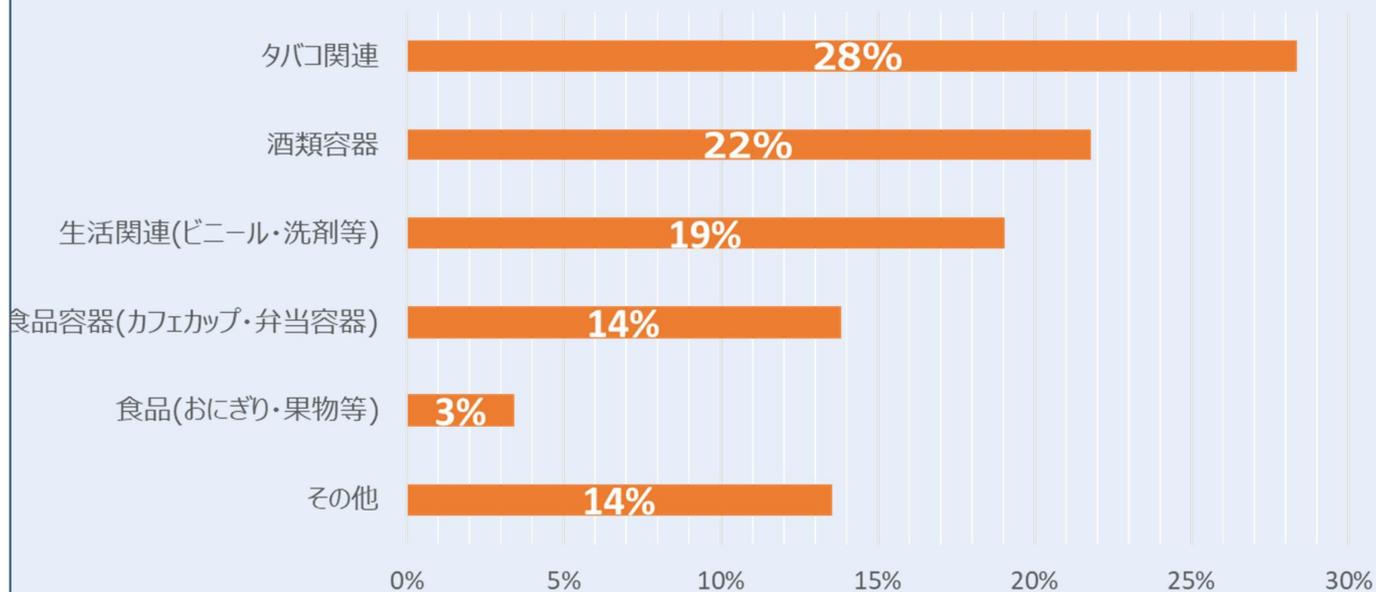
69%の内、飲みきっているのは61%。
残り8%は飲み残しがありました！

2018年12月東京都内にて調査

26

異物で最も多いのは、たばこ関連。次いで酒類や生活関連など、アウトドアで消費しないものも多くありました

清涼飲料容器以外の異物



2018年12月東京都内にて調査

自販機専用空容器リサイクルボックス 異物事例



レジ袋や食品缶、ベルトまで入っています



空弁当箱や、ケースの中にたばこ吸い殻が入っていました

目的	自販機専用空容器リサイクルボックスから異物を「0」とし、リサイクルを促進するとともに、散乱防止にもつなげる。
異物の影響	<ul style="list-style-type: none"> ・油等の汚れは、再商品化を難しくします ・飲み食べ残しは不衛生であり、たばこの吸い殻は危険です ・異物によるスペースで本来の空容器が入らない場合があります、散乱に繋がります。
	
今後の実証実験	ステッカーのメッセージを変更する
ステッカー内容	<ul style="list-style-type: none"> ・清涼飲料水の空容器だけ入れて下さい ・これはリサイクルボックスです！家庭からのごみやたばこなど捨てないで下さい →など直接的なメッセージをプラスし、リサイクル目的であることを訴求する。
形状など	ふたを開けて入れられている状況もあり、リサイクルボックスの改良も検討する

目的	消費者へ自販機専用空容器リサイクルボックスであることを啓発する
啓発内容	<ul style="list-style-type: none"> ●リサイクル目的に空容器だけを集めています ●混ぜればごみになりますが、分ければ資源になり、資源循環します ●飲料空容器はPETボトルと缶、びんです。カフェチェーンの持ち帰り用カップやたばこは入れないでください ●自販機の横にあるリサイクルボックスは、自販機専用です ●環境省プラスチック・スマートに参加しています
貼付枚数	50万枚
対象エリア	<ul style="list-style-type: none"> ●首都圏エリア：東京都23区、神奈川県横浜市・川崎市、埼玉県さいたま市、千葉県千葉市 ●中京エリア：愛知県名古屋市 ●京阪神エリア：大阪府全域、京都府京都市、兵庫県神戸市
対象機	全清飲の会員社・日本自動販売協会会員社所有の自販機 エリア内すべてのロケーションに交渉の上実施する
実施時期	2019年5月より貼付活動開始

啓発ステッカー

天地 152 × 左右 114 mm

貼付イメージ

**リサイクル目的に
空容器だけを集めています**



飲料空容器 **その他のごみ**
Plastics Bottles Other garbage
Glass Bottles・Cans

 Plastics Smart 

私たちは環境省が推進しているプラスチックスマートキャンペーンに参加しています

混ぜればごみ 分ければ資源



31

PETボトル資源循環促進 のための 消費者啓発

目的	プラスチック資源循環を促進するためPETボトルが資源循環している（再製品化している）ことを啓発する
啓発ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の役割である分別排出、またポイ捨てをしないように呼び掛ける ・自販機専用空容器リサイクルボックスは、リサイクル目的の回収であることを理解してもらう
ターゲット1	小・中・高校生（B2ポスター） 全国の小・中・高の計 3万3000校 に環境教育の一環として掲示をお願いする
ターゲット2	教育委員会および消費者センター（B2ポスター） 教育者や消費生活アドバイザーなど啓発する立場の方々が集う場所へ配布する
配布方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校＆全教育委員会：小・中学生キャリア教育支援教材と同送（6月） ・中学校＆高校は日本教育新聞社の連合DMにより送付（6月） ・消費者センターは「全清飲2019活動レポート」と同送（5月末） 別途、A4チラシを作成しており、は全清飲 イベントで配布（順次）する

B2ポスター4万部、A4チラシ2万枚を作成し配布します³⁶



<直接伝えたいメッセージ> プラスチック資源循環

PETボトルは貴重な資源です。正しく処理することで、様々なものに生まれ変わります。

この結果、リサイクルへの参加意欲を喚起していきます。

<サブメッセージ>

- “ポイ”捨てしないでね
回り回って海洋ごみになる
かもしれません。
- 自販機脇ボックスは
リサイクルボックスです。

ごみは絶対に入れないでね。
リサイクル品質が劣化します。

目的

教育現場でのキャリア教育の中でPETボトル資源循環について啓発するためテーマは「ペットボトルを100%有効利用するには？」

啓発ポイント

- ・自販機専用空容器リサイクルボックスは、リサイクル目的の回収であることを理解してもらう。
- ・現状の課題である異物について、具体的に訴求
- ・リサイクル品の品質劣化についても説明
- ・PETボトルの資源循環はポスターを活用して訴求

ターゲット

小・中学生、教育委員会

媒体

「おしごと年鑑」（朝日新聞）

発行部数 寄贈6万7千部予定 販売初版1万部予定

完成：2019年6月17日（月）

送付先・全国の小中学校全校、全世界の日本人学校など、図書館等

書店販売（2,000円（税別）、発売：7月5日/A4判並製、352ページ）



2018年度より取り組んでおり、昨年は自販機の構造について企画。子供達にとって、身近な存在であり高い評価を得ています。



ペットボトルを100%有効利用するには？



清涼飲料水の主要な容器であるペットボトルは、正しく分別排出することにより、有効利用することができます。ペットボトルのリサイクルについて、全国清涼飲料連合会に聞きました。

A みんなが協力し、ルールを守って分別排出すれば、100%有効利用することができます。ポイ捨てはしないでね。

自動販売機の横に設置されているリサイクルボックスは、容器を回収し、資源として活用するためのもの。決められたものを投入してはいただけません。もちろん、ポイ捨ても絶対ダメだよ。

リサイクルボックスに よく入れられる ルール違反のもの

- 飲み残しの入った飲料容器
- ビニール袋、紙袋
- カフェの持ち帰り用カップ
- 弁当容器
- おかし、お菓子の包装、袋
- たばこの吸い殻やライター

別のものを入れると、ペットボトルや缶が入りきらなくなっちゃうよー！

このステッカーに注目！

全国清涼飲料連合会では、諸君・販売店のリサイクルボックスに50万本のステッカーを配布した。お買い物の時に確認することで、リサイクルボックスにルール違反のものを投入しにくくしようという試みです。

ルール違反のものが混じると、リサイクル品の質が悪くなる！

ペットボトルは、ポリエチレンテレフタレートという単一の素材でできているため、きちんとリサイクルすれば、高品質トレイやユニフォーム、同じペットボトルにも生まれ変わることができます。でも、リサイクルボックスに決められたもの以外のものが混じっていると、再生された資源の質が悪くなり、同じペットボトルになることができません。これは、昔でできたスチール缶や、アルミニウムでできたアルミ缶も同じこと。リサイクルボックスはゴミ箱ではありません。リサイクルボックスを正しく使うことで、貴重な資源にすることが可能です。

ペットボトルは、正しい方法で分別回収にしましょう！

- ペットボトルをきれいに洗って乾かす
- 瓶の口を閉めておく
- 中をすすぐ
- キャップは別して、ラベルもはがす

正しい手順で回収されたペットボトルは、リサイクルされます。

市町村が分別回収し、資源としてきれいに処理します。

数個集まった瓶のペットボトルは、資源の品質だよ。

清潔なトレイ

高品質のトレイ

ユニフォーム、紙袋

ユニフォームや、紙袋にもなるよ。

きちんと回収し、資源として有効活用できるのね！

きちんと回収できれば、リサイクルして資源として有効活用できるのね！

再び商品として生まれよう！

ペットボトル

同じ素材のペットボトルに生まれ変わるには、リサイクルの品質が重要！

※資源利用は、リサイクルと関係のないことです。

小・中学生にリアルな現状を知ってもらうため、「リサイクルボックス」に入れられるルール違反のもの「飲み残しの入った飲料容器」、「カフェの持ち帰り用カップ」、「弁当容器」、「たばこの吸い殻」などを伝えることで、大人への啓発波及効果も期待しています。

■ ■ 取り組み実施事項 ■ ■

■ 第3回 海洋プラスチック問題勉強会

海洋プラスチック問題に対して、意見交換の場も含め、充実した学習の場を（一社）全国清涼飲料連合会と（公社）食品容器環境美化協会合同で『第3回 海洋プラスチック問題勉強会』として企画しました。

第一回2018年5月…参加者約100名

第二回2018年11月…参加者約150名

第三回2019年6月…参加者約250名

<開催日時> 平成31年6月25日（火） 13:00～17:00

<開催場所> TKP東京駅大手町カンファレンスセンター ホール22G

<予定プログラム>

== 講師 ==

- ・国立大学法人 九州大学 応用力学研究所 大気海洋環境研究センター 海洋力学分野 磯辺 篤彦 教授
- ・国立研究開発法人 産業技術総合研究所 環境管理研究部門資源精製化学研究グループ 加茂 徹 上級主任研究員
- ・佐藤泉法律事務所 佐藤 泉 弁護士
- ・国立大学法人 神戸大学大学院 経済学研究科 神戸大学経済学部 石川 雅紀 教授
- ・環境省 環境再生・資源循環局総務課 リサイクル推進室 井関勇一郎係長

37

■ ■ 6月25日 海洋プラスチック問題勉強会 ■ ■



参加人数250名にて、海洋プラスチック問題の最新トピックスを学ぶ場となりました。

3

■ 今後の取組

清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言を踏まえた短期・中期・長期の取組みの方向性を立ち上げた2つの委員会を中心に検討。

ポイントは、

- 1 散乱している空容器への対応
- 2 散乱しない仕組み(回収向上)づくり
- 3 回収後の100%有効利用への取組み

今後とも、ご指導の程よろしくお願いいたします。